

声に出して伝える大切さ

振り返ってみると、アッという間のアメリカでの約10年。今も感謝を忘れず。

T-GAL(横浜 帰国家族の会)

や は た あ つ こ
八幡敦子

えっ！ ニューヨーク!!

インターネット検索もスマホもない1980年代後半。結婚と同時にアメリカ行きが決まった。この予期せぬ展開から数カ月後、周囲の心配をよそに、私たちの新婚生活はニューヨーク州ポートワシントンから始まった。アメリカ合衆国は移民の国で人種のるつぼとも言われる。

その東海岸にある
ニューヨークといえ
ば、自由の女神像や
摩天楼がそびえるマ
ンハッタン島が有名
だ。ポートワシント
ンはそのマンハッ
タン島から東に位置
するロングアイランド
島を車で40分ほど
走った郊外にあり、
多くの日本人駐在員
が住んでいた大西洋
に面している静かな
町だ。



ニューヨークといえば、自由の女神像

初めの一步は徒歩での買い物

近所に誰ひとり知り合いもなく、車の運転も不安だった頃。徒歩でスーパーマーケットに行ってみた。広い駐車場のそこかしこに、大きなショッピングカートが無造作に置かれている。今

や日本でもおなじみだが、最初はこのカートに山盛りの商品を見てびっくりしたものだ。売場も広くまるで迷路のよう。買いたいものの場所すら分からない。おずおずと店員らしき人に声をかけてみた。“Excuse me.”案内してもらい無事手にすることができた。レジでもあたふた。今どきはキャッシュレスが当たり前となりつつあるが、まだ現金払いが主流の頃だ。コインの種類は分かっている、それをどう組み合わせればいいのか瞬時に判断できない。思わず持っていたコインを全部手のひらに載せて差し出した。係の女性は“Thank you.”と言って必要な分を取ってくれた。良かった、ホッ……。

少しずつ慣れてきたが、毎日の生活にやはり会話力は必要だ。ESL (English as a Second Language) といわれる英語を母語としない人々の学びの場である、「アダルトスクール」という無料の英会話教室に通い始めた。私は昼のクラスに通った。昼間働いている人たちのために夜もあった。先生は皆ボランティアで、いつも



先生を囲んで、アダルトスクールの生徒全員集合